

令和7年度（2025年3月）
臨床研修 海外短期留学プログラム
帰国報告

Liverpool Hospital(NSW) /
Sydney University

2025年6月18日
和歌山県立医科大学附属病院
循環器内科 村上伸



はじめまして

- ・和医大 2023年（令和5年）卒業（一般枠）
 - ・和医大 2025年（令和7年）初期研修修了
 - ・和医大 2025年4月～ 循環器内科入局
- （※現在 救急集中治療部 出向中 2025年4月～6月）



2023年（研修医1年目）

4－6月 循内
7－8月 呼内
9月 リウ・膠
10－11月 血内
12月 脳外
1月 腎内
2月 二外
3月 小児科（橋本市民）

2024年（研修医2年目）

4－6月 救急科
7月 地域（野上厚生病院）
8月 精神科
9月 神経内科
10月 産婦（新宮）
11月 糖・代内
12月 消内
1月 CCU
2月 心外
3月 海外研修

臨床研修 海外短期留学プログラム

・ 募集：2年目の8月頃

・ 10万/20万の助成金

→航空券代金くらい

・ 応募用紙の提出

→志望留学先の決定

→志望理由

※5名前後

・ 面接

→国際交流センター長

/卒後臨床研修センター長

※地域/県民枠 優先

※一般枠でも和医大残る人？

経緯

Liverpool hospitalへ

・ 2023年4－6月

上級医 片山Dr

7月～ Sydney大学へ留学

→循環器内科 **根岸教授**がBOSS



・ 2024年より根岸教授

Sydney大学→NSW Universityへ

<<NSWU へ依頼>>

Liverpool HosipitalでのJMO決定

研究施設も見学させて頂けることに

留学準備

- ・ パスポート
- ・ 履歴書（英文）
- ・ 推薦状（英文 2通）
- ・ 医師免許証（英文）
- ・ ワクチン接種歴証明（英文）
- ・ 病院との各種契約書
- ・ 犯罪経歴証明書
- ・ Visa
- ・ 航空券
- ・ 宿泊先の手配

研修内容

- **Liverpool Hosipital (UNSW) での病院研修**
- **根岸教授の研究室**
→ Ingham 研究所(NSW government)
- **片山先生の研究室**
Sydney University
→ Charles Perkins Center
→ Nepean Hosipital

NSW Government Liverpool Hospital

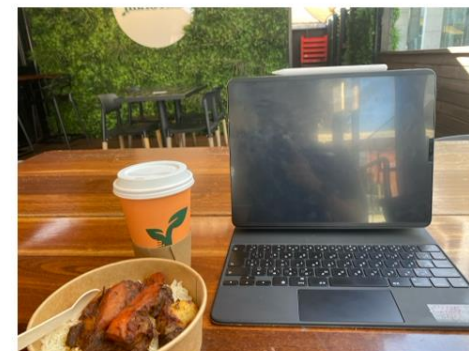


- 南半球最大規模
- 病床数 960床
(ヘリポート2台)
- ICU 60床
- CCU 20床



Liverpool Hospitalでの1日

- 7:30ー 病院到着
- 8:00ー12:00 チーム回診、プレゼン
上級医コンサル、方針決定、カルテ記載
- 13:00ー カンファレンス
その日の治療（カテ室/エコー室）
ER新患
- 17:00ー19:00 勉強
- 19:00ー 買い物、夕食



Liverpool Hospital



医療制度の違い

項目	日本 	オーストラリア 
保険制度	国民皆保険	Medicare (国民皆保険)
初診の流れ	直接専門医に受診可能	GP → 紹介で専門医
医療費負担	3割 (公的保険)	原則無料または一部負担
自由な病院選択	高い	制限あり (GP 経由)
医療アクセス	高いが過剰受診も多い	地域差あり、待機長め
制度の持続可能性	高齢化で課題大きい	民間併用で負担軽減試み

オーストラリアの研修制度

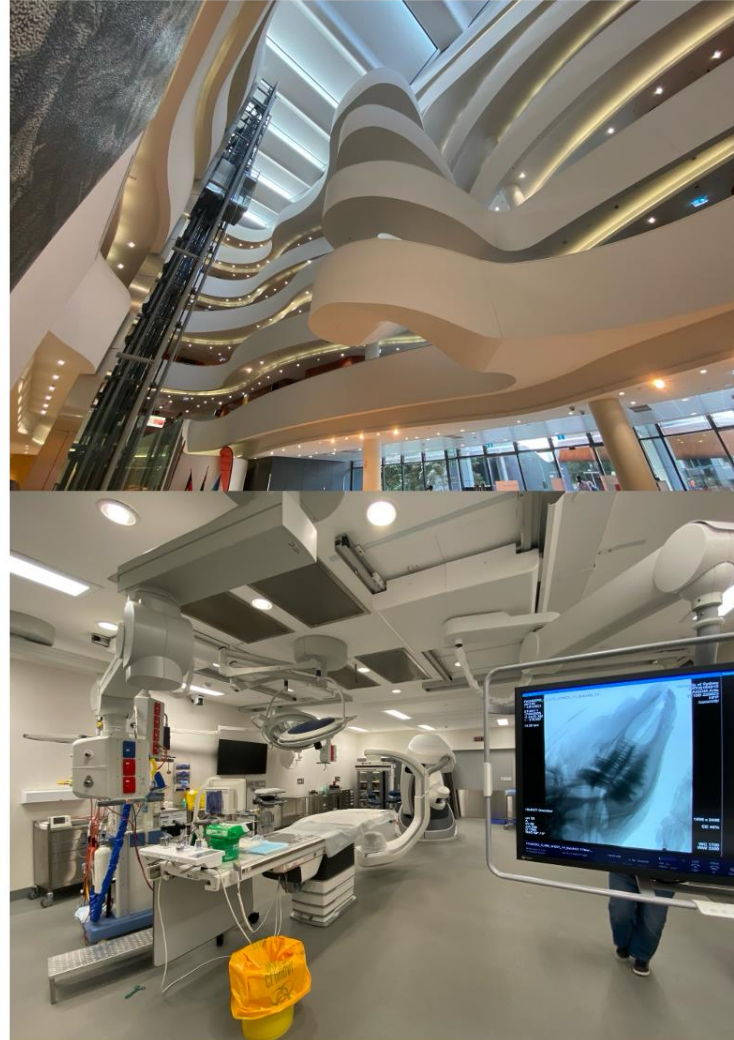
< 医学部 >	< 研修医2年間 >	< 内科専攻医 >	< 循環器内科 >	< サブスペ >
〔4年制：既卒〕	Interern1年	Basic	General	Advanced
〔5年制：スタンダード〕	Resident1年	Physician	Cariology	Trainee
〔6年制：研究活動+1年間〕	2年間	3年間	4年間	2－3年間

- ・ 日本と似ているが、ステータス毎の役割・棲み分けは明確に区別
→ カテを触るのはサブスペ以降。それまでは病棟・救急対応が主。
- ・ サブスペまでは長いが、修了すれば、、、    
- ・ 日本の医師免許でも働ける

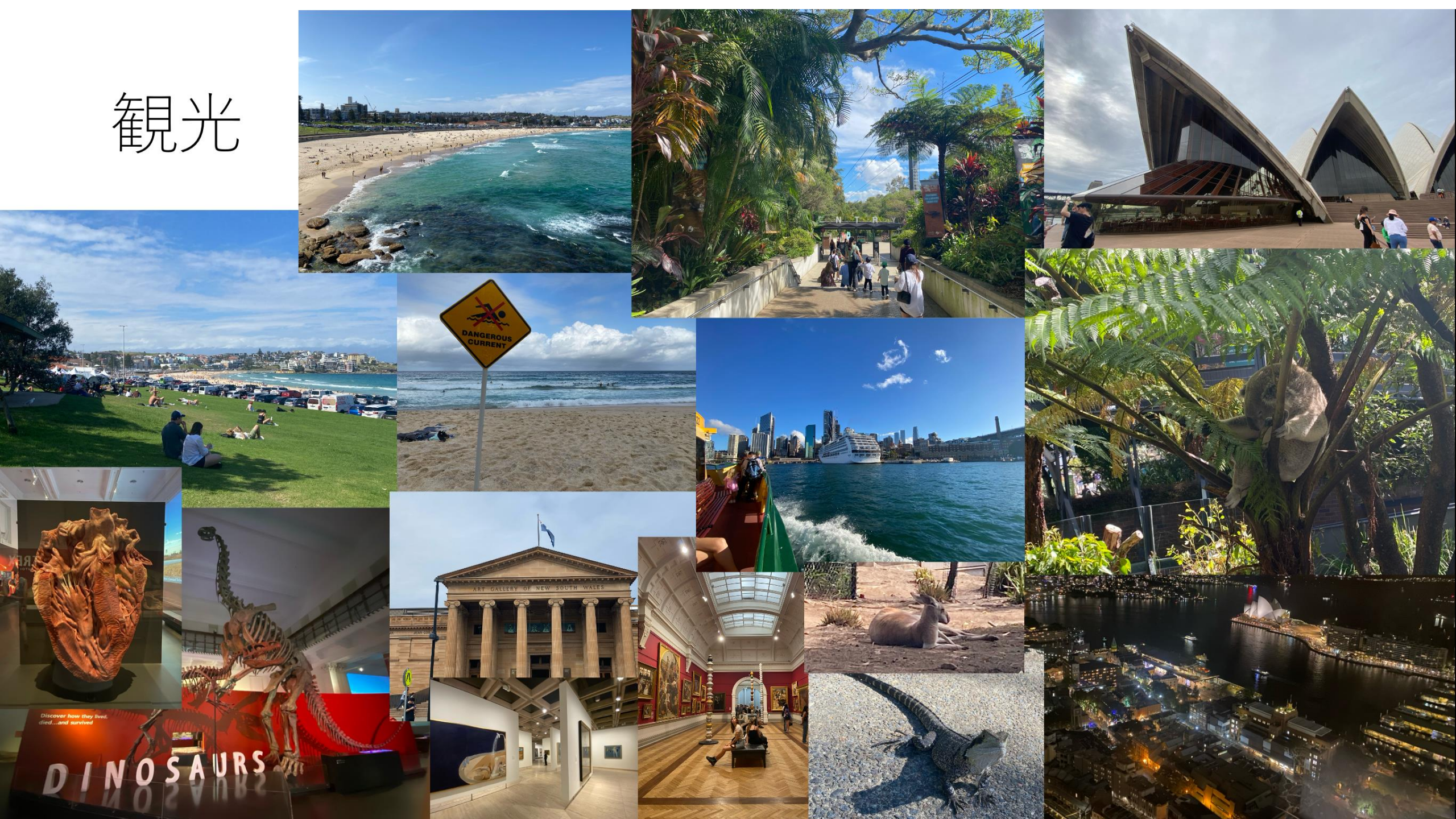
Sydney University



Sydney University Charles Perkins Center



觀光



觀光



海外研修のススメ ~ *it's icing on the cake !* ~

- ・ぜひ、行ってください。
- ・海外で1ヶ月弱滞在できること、この先なかなかないです。
- ・世界の医療レベルを、日本との違いを感じてください。
- ・とにかくたくさん刺激を受けて、モチベーションを上げてきてください。
- ・視野/見聞を広げてきてください。
- ・研修最後の有終の美を

研修生活が、もっと素敵なキラキラしたものに



謝辞

改めまして、この度はオーストラリアへの短期留学というとても貴重な機会を頂き、有難うございました。毎日本当にとっても刺激的で、初期研修の2年間が終わった段階での自分の到達レベルを知ることができ、課題もたくさん見つけることができました。漠然としていた自分の将来のビジョン、そして目指すべき自分の目標がかなり具体的に想像できるようになったことが何よりの収穫でした。今後も精進を続けていきたいと思います。

片山先生、根岸先生、小澤先生、卒後臨床研修センターの皆様、国際交流センターの皆様、田中教授、北野教授、そして片山先生のご家族様には本当にお世話になりました。

この場をお借りして、深く御礼申し上げます。



卒研の皆様、ありがとうございました。